

①の説明文は更科功『若い読者に贈る美しい生物学講義——感動する生命のはなし』からの出題です。科学における結論の求め方について述べた文章です。

問一は1頁上段11行目傍線1「たとえば、車を運転して会社に行くとしよう。」の具体例を出した理由としてふさわしいものを選ぶ問題です。1頁上段4行目に、「科学では、決して、一〇〇パーセント正しい結果は得られない。」とあるので、イとエは誤りです。また、この具体例は、1頁上段8行目「真理に決して到達することができないなら、科学なんかやる意味がない」という意見への反論として提示されています。よって、「最初から無駄である」と断じているウは誤りです。正解はアとなります。

問二は1頁下段38行目傍線2「科学では推測が重要だ。」の理由を、演繹の方法を用いて説明する問題です。1頁下段32行目からのイカの例より、演繹は、AはB、AはCという2つの根拠からBはCという結論を導き出す方法であると理解します。これを傍線2の文脈に当てはめると、B＝科学、C＝推測となるため、傍線2の理由を答えるためには、科学と推測に共通するAが必要だと判断できます。このAは1頁下段45行目「科学は、新しい情報を手に入れようとする行為」、1頁下段64行目「推測を行えば知識は広がっていく」にそれぞれ記されているため、ここを用いて記述をAはB、AはCというようにまとめます。設問に合わせて、答案の文末は「～から。」にする必要があります。

問三は1頁下段50行目傍線3『逆・裏・対偶』を「池に濡れたなら、服が濡れているはずだ。」に当てはめたものとしてふさわしい内容を選ぶ問題です。「AならばB」を基準となる文脈として考えると、1頁下段52行目以降より、「逆」は「BならばA」、「裏」は「AでないならばBでない」、「対偶」は「BでないならばAでない」と理解できます。よって、Aはイ、Bはウ、Cはアとなります。

問四は1頁下段60行目傍線4「正しい演繹なら結論は一〇〇パーセント正しい。」、1頁下段63行目傍線5「推測の結論は一〇〇パーセント正しいとはいえない。」の理由を説明する問題です。まず、演繹の結論の正しさについては、1頁下段41行目「なぜなら二つの根拠が成り立っていれば、必ず結論が導かれるからだ。」で理由が説明されています。そして、これを言い換えると、1頁下段60行目「結論（の情報）は、根拠（の情報）の中に含まれている」となります。演繹と推測は対極の方法であるため、演繹が「結論（の情報）は、根拠（の情報）の中に含まれている」のであれば、推測は「根拠（の情報）の中に含まれないものが、結論（の情報）となる」ということとなります。このことは1頁下段63行目にも書かれており、これこそが、推測の結論の不確かさの理由です。解答では、演繹と推測それぞれの理由を、一文にまとめて記述します。設問に合わせて、答案の文末は「～から。」にする必要があります。

問五は2頁上段84行目「そういう仮説」を説明する問題です。直前を読むと、2頁上段82行目「たくさんの観察や実験の結果によって、何度も何度も支持されてきた仮説」とあるので、ここを用いて制限字数以内になるようにまとめます。設問に合わせて、答案の文末は「～仮説。」にする必要があります。

問六は空欄[A]から[D]に適切なことばを入れる問題です。[A]にはイ、[B]にはウ、[C]にはア、[D]にはエが入ります。

問七は漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。

問八は本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。1頁上段1行目から始まる連続する2つの段落の内容とほぼ一致している、エが正解です。アは「複数の推測を検証し」、イは「主観的な価値」、ウは「真理と呼んでいる」がそれぞれ誤りです。

続いて[2]の物語文の解説に移ります。橋本紡「空色ヒッチハイカー」からの出題です。

問一は4頁上段23行目傍線2「優越感」を言い換えた表現を抜き出す問題です。普段は追いつけない兄に対し、その先を行くことができる優越感を表している箇所として、4頁上段25行目に「お兄ちゃんが僕の名前を呼んだけど、声が後ろから聞こえてくることに、ぞくぞくするような快感を覚えた。」とあることから、「ぞくぞくするような快感」を抜き出します。

問二は4頁下段43行目傍線3「どこで失敗してしまったんだろう……」の「失敗」の原因を説明する問題です。「失敗」の内容は、転んで頭を打ちけがをしたことですので、けがの原因を考えます。4頁上段17行目に「賢明なお兄ちゃんは、僕の限界を見定めながら、スピードを抑えていたんだ。もしお兄ちゃんだけだったとしたら、もっともっと速く下りていたはずだ。それこそ僕が追い付けないくらいのスピードで。」とあり、4頁上段20行目に「幼い僕はそういうことがわからなかった。」とあることから、幼さゆえに正しく判断することができなかったと読み取れます。その後、4頁上段21行目以降「勝手にうぬぼれた。」「お兄ちゃんを超えた気になった。」と続き、「僕は下るスピードを一気に上げ、お兄ちゃんを追い越して先に進んだ。」と展開するため、「兄の配慮に気づくことなく、調子に乗って自分の限界を超えて兄を追い越そうとしたこと」が原因であると判断して、まとめて記述します。設問に合わせて文末は「～こと。」としましょう。

問三は「鬼」に関連する慣用句の問題です。一はオ、二はア、三はエ、四はウ、五はイです。

問四は5頁下段120行目の傍線5「怖いね、お兄ちゃん」における心情を説明する問題です。僕が何を「怖い」と感じているのか、「怖い」という気持ちには何が含まれているのかを文章から読み取ります。5頁上段93行目から始まる段落より、「自然の巨大な様子と、それに対して人間がいかに弱々しい存在であるかをつきつけられ、不安や恐怖を抱いている」と解釈することができます。また、5頁下段105行目から始まる段落より「長い年月を生き抜いてきた自然に対する畏怖や畏敬のような感情」を抱いていることもうかがえます。以上の2点をまとめて記述します。設問に合わせて文末は「～心情。」もしくは「～畏怖。」など心情語を用いましょう。

問五は、4 頁 13 行目傍線1「お兄ちゃんを追い越してやろうと思った。」、6 頁上段 134 行目傍線6「もうお兄ちゃんを追い越そうなどとは考えなかった。」の心境の変化について問う問題です。「兄を追い越そう」とする心境は、状況を冷静に把握しないまま調子に乗っているととらえることができ、「兄を追い越そうなどとは考えなかった。」とする心境については、6 頁上段 135 行目に「お兄ちゃんの背中がとても大切なものに思えた。」とあることから、兄を心から尊敬して憧れていることがわかります。「僕」が転んでけがをしたところ、4 頁下段 52 行目で「僕」を背負って下山する、4 頁下段 59 行目から始まる段落で止血の処置をするなど兄は冷静に対応します。これらのできごとをふまえて、心境の変化をまとめて記述します。設問に合わせて文末は「～から。」とし、変化を記述するために「AからB」もしくは「Aだったが、Bになった」という構成の文にしましょう。

問六は空欄A～Dに適切な語句を入れる問題です。Aがエ、Bがア、Cがウ、Dがイです。

問七は本文全体を通して描かれる兄の人物像を選ぶ問題です。兄は、親とはぐれている中でも常に弟を気にかけて、突然の弟のけがに対しても即座に対応し、その場に応じて適切な行動を考えて実行しています。ただ、自然に対して恐怖を感じ、それを弟に悟られてしまう隙もある少年です。よって正解はイとなります。アは「冷静な少年」が誤りで、ウは「僕」が兄を目標にしたのは両親の代わりであるという表現が誤り、エは「危険を冒すこともいとわない」が誤りとなります。

問八は本文に合致しているものを選ぶ問題です。アの「鉄錆の味」は味覚に関わる表現、「ごわごわした靴下」は触覚に関わる表現として実際に文中に登場しており、「五感を用いた表現」となっています。「僕」と兄が迷い込んだ山での体験における表現でもあることから、選択肢の内容と本文に相違はありません。よって正解はアになります。イは「今の『僕』が目標とする兄の姿へ未だ及んでいないことを暗示している」が本文から読み取れないため誤りです。ウは「恐怖が増すと自然の姿も大きくなるため」、エは「『僕』と兄の結びつきが著しく変化する」がそれぞれ本文の内容と食い違うため誤りです。